

手術部位感染報告

【指標の意義・定義】

手術部位感染（以下 SSI: Surgical Site Infection）とは、手術操作を直接加えた部位に発生する術後感染のことで、手術創の感染とともに縫合不全や遺残膿瘍などの腹腔内の感染も含みます。一度 SSI が発生すると、患者さんにとっては、入院期間の延長・支払う医療費の増大と、手術治療に対する満足度を著しく損ねることになります。医療者側にとっても時間的・物質的・経済的に負担となり、SSI 発症率を低下させることは非常に重要な課題です。

当院では SSI の実態を調査して、疫学的原則に基づいて収集・分析・解釈し、厚生労働省事業 JANIS に報告して情報を共有しています。PDCA（Plan、Do、Check、Action）サイクルといって、得られた情報をもとに SSI 防止対策を立案・実施し、評価することを繰り返し SSI の低減をはかっています。

【当院の実績】

SSIの発生率（％）

手術部位	手術コード	場所	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
胃	GAST合計	当院	9.3	6.8	9	0	4.4	3.4	9.6	4.6
		JANIS基準	7.9	8.3	7.5	7.4	7.3	7.3	7.6	7.4
	GAST-D	当院	7.7	5.6	5.6	0	0	0	9.5	0
		JANIS基準	6.6	7	5.9	6.1	5.8	6	6.8	6.6
	GAST-T	当院	7.4	14.3	13.3	0	16.7	10	7.7	0
		JANIS基準	10.4	11.5	11.2	10.1	10	10.4	10.6	10
	GAST-O	当院	15	4.2	12.5	0	5	3.4	11.1	12.5
		JANIS基準	7.7	7.5	7.2	7.2	7.5	7.1	7	7.1
脊椎	FUSN	当院								0
		JANIS基準								2.1
乳房	BRST	当院	1.4	0.7	1.3	1.4	4.3	4.2	3.3	0.7
		JANIS基準	1	1.6	1.7	1.6	1.5	1.5	1.3	1.4
虫垂	APPY	当院								
		JANIS基準								
心臓	CARD	当院								
		JANIS基準								

【指標の説明】

胃・脊椎・乳房いずれも 2023 年は全国平均より低い SSI 発生率であった。虫垂・心臓については感染対策支援システムが導入されることとなり評価を開始したが、まだ全国データと比較できるデータがそろっていないため、2025 年より揭示予定。